
デジモンクロスウォーズ～4人のジェネラルの絆～

佐久間次郎

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

デジモンクロスウォーズ〜4人のジェネラルの絆〜

【Nコード】

N0228W

【作者名】

佐久間次郎

【あらすじ】

くわしいことはポケモンクロスウォーズのお知らせを見てくださ
い。

一応、ポケモンクロスウォーズを見てない人でも楽しめます。

デジタルワールドに帰還したタイキは7つの王国にわけられたデジタルワールドを救うため、キリハ、ネネ、シュンとともにデジタルワールドに旅立つ。

タイキ、デジタルワールドへの帰還（前書き）

ポケモンクロスウォーズの続編です。お知らせを見てください。

タイキ、デジタルワールドへの帰還

タイキがデジタルワールドに戻った。

そこは7つの王国にわけられ・・・

その国の將軍のデスジェネラルを倒さなくては次の国には行けない。

ジェネラルのタイキ・キリハ・ネネ・シュンは7つの王国の將軍、
デスジェネラルを倒すため、旅立つ。

タイキ「ここは・・・どこだ？」

見てみると花畑が広がっていた。

シャウトモン「どんなゾーンなんだ？」

「君達ーーーーッ！！！」

シャウトモン「あ、リリモン！！」

そう、このリリモンはシャウトモンの故郷にいたデジモン。

シャウトモン「なあ、リリモン・・・ここはどこっ・・・

リリモン「隠れてっ！！！」

花畑の中に押し込んだ。

タイキもろとも。

シャウトモン「な、なにすんだよっ・・・！！！」

サッサツ花畑を歩くシュンが現れる。

タイキ「っ・・・！！シュンっ！！」

リリモン「しっ、静かに。」

シュン「ここらへんにはいなさそうだな……。ドルビツクモン……。」

クロスローダーをかかげた。

シュン「リロード、父さん。」

リロードされたのはホーリーエンジェモン。」

シュン「父さん、ドルビツクモンってどんなデジモンなの？」

ホーリーエンジェモン「もつとも凶悪なドラゴンと呼ばれている。……ドラゴンの中でもっとも強いと言われている。」

リリモン「そうよ、今のデジタルワールドは7つの王国にわけられ、ここ、ドラゴンランドは「始まりと絶望の国」と呼ばれているわ。」

シャウトモン「シュンが隠れてねーのになんで俺達がかくれなきゃいけないんだ。」

リリモン「アナタの能力の高さからバグラモンがとても警戒しているわ……。もし、見つかったらアナタ達は……。」

シュン「タイキ、いつまで隠れているんだ？」

タイキ「っ……。お、おれは……」

タイキ「オハナモンだっ！！！！」

花の飾りをつけたタイキがシュンの目の前に立つ。

シャウトモン「もっとマシな名前なかったのかよ。」

シュン「敵に囲まれている。」

タイキ「わひっ！！！！」

そこに小さなドラゴン、ドラコモンがいた。

ドラコモン「いやだっ、僕はバグラ軍なんかに戻りたくない。」

「うるさい、いいから戻れ、さもないと・・・。」

ドオオオン

ドラコモン「うわあっ・・・!!!!」

攻撃され、ボロボロになる。

リリモン「ひどい・・・。」

タイキ「ほっとけない!!」

シュン「5対1とは・・・卑怯な・・・。」

2人は顔を見合わせる。

タイキ「似てるよな。」

少し驚くシュン。

シュン「お前に似てると言われるのはな・・・。」

タイキ「やめろっ!!」

「誰だ、お前はっ……!!」

タイキ「お、俺は……オハナモン!!」

シャウトモン「タ、タイキ……」(汗)

シュン「ハア……」

ため息を吐きつつも薄く笑うシュン。

ホーリーエンジェモン「不思議な人間だな、工藤タイキは。」

シュン「ああ。」

「……オハナモン……この国にそんなデジモンいたか……」

どうやら、通ったらしい。

シャウトモン「とーもかくっ!!!!そのデジモンをいじめるのはやめろっ!!ロックダマシー!!!!」

放たれた炎周りに広がる。

リリモン「ここは花畑……むやみに戦うのは危険よっ!!!!」

炎がドラコモンに迫る。

ドラコモン「うわああ!!」

ホーリーエンジェモン「むうん!!」

ホーリーエンジェモンがドラコモンを抱きかかえ飛び去る。

「貴様はっ・・・ホーリーエンジェモン・・・っ。死んだはずでは・・・!?」

シュン「俺の父さんを甘くみるな・・・。」

ホーリーエンジェモン「君はここに隠れて。」

ドラコモン「ありがとうございます・・・。す・・・ごい・・・。本物だ・・・。」

その言葉にフツと笑うと飛び去る。

シュン「タイキ、お前は隠れている。」

シャウトモン「何ーーーーっ!!」

シュン「シャウトモンしかないお前に太刀打ちなどできない。」

シャウトモン「なめるなよおっ!!!!俺の力・・・

タイキ「シャウトモン!!超進化!!!!」

シーン。

何も起こらない。

シャウトモン「あれ・・・。」

ドオオオオオン!!!!

目の前が炎に包まれる。

シュン「黙って見ている。リロードっ!!!ウオーグレイモン!メタルガルルモン!!!」

ウオーグレイモン「うおおおおっ」

メタルガルルモン「はあああああ!!!」

あっという間に敵を倒した。

シュン「フン・・・。」

ウォーグレイモン「シュン様、大したことのない相手ですね。」

シュン「油断はするな・・・。この王国の將軍・・・デスジェネラルは強い。」

メタルガルルモン「わかっております。」

すると地面に亀裂が入る。

シュン「ここは危険だっ!!!!」

すぐさま2体をクロスローダーに戻す。

地面が割れる。

シュン「っ・・・!!」

タイキ「わあっ・・・!! あああっ!!!!」

落ちそうとなるタイキのゴーグルをつかむシャウトモン。

シャウトモン「あ・・・ああ・・・。」

遂にシャウトモンのいる地面も割れる。

2人「うわあああああーーーーっ!!!!!!!!!!」

シュンは間一髪、ホーリーエンジェモンに上に乗った。

シュン「タイキーーーーっ!!!!!!!!!!」

リリモン「シャウトモン!!」

そこには・・・

ドルビツクモン「ようやくあえたな・・・ホーリーエンジェモン・・・そしてその息子。」

シュン「・・・っ!!」

ホーリーエンジェモン「ド・・・ドルビツクモン・・・!!」

ゆっくりと近づいていく。

ドルビツクモン「ふふ、背中に乗っているのは大切な息子か？」

シュン「ドルビツクモン、ちょうど俺も会いたかったところだ。」

ドルビツクモン「戦うのか？だがこの地面が・・・お前のデジモン

の重さに耐えられるかな・・・？」

ニヤッと笑うドルビツクモン。

シュンは黙っている。

しばしの沈黙が続く。

シュン「いまだっ！！！」

ホーリーエンジェモン「ヘブンズゲート！！！！！」

しかし・・・

ドルビツクモン「甘いっ！！！！」

ズガアアアアアアン！！！！！！

攻撃され吹き飛ばされる。

ホーリーエンジェモン「ぐわああああっ！！！！！！」

シュン「っあ！！！！父さんっ・・・！！！！」

体にけむりがくすぶっていた。

ホーリーエンジェモン「大丈夫だ。」

ドオオオオオオン！！！！！！

ドルビツクモンにミサイルが撃ち込まれる。

シュン「来たか……。」

キリハ「……打て!!!!!!メタルグレイモン!!!!!!」

メタルグレイモン「トライドントアーム!!!!!!」

ズガアアアアン!!!!!!

ドルビツクモン「ええい……。赤のジェネラルのように……。緑と青のジェネラルもいたか……。」

どうやらオハナモンの正体がバレていたらしい。

ドルビツクモン「くらええええええっ!!!!!!」

ホーリーエンジェモン「っ……。!!!!!!」

背中にシュンがいること……。それで自分が犠牲となり、攻撃を仕掛けることができなかった。

ホーリーエンジェモン「この炎を吸収するヘブンズゲート!!!!!!」

炎を吸収する。

ガガガガン！！！！

キリハ「ぐわあああああ！！！！」

炎と衝撃波に飲み込まれ、落ちる。

シュン「キリハっ！！！！」

ホーリーエンジェモン「一度・・・下に行き逃げるぞ。」

シュン「・・・・・・・・。。。」

ホーリーエンジェモン「わかってくれ、ここは危険なんだ・・・。」

すると小さくうなずいた。

逃げるのが嫌なシュンだったが・・・

圧倒的に力を持つドルビックモンの前に仕方ないと思い逃げ込んだ。

ドルビックモン「逃げたか・・・だが・・・今のうちに・・・ドルビックモン！ファンロンモン！強制デジクロス！！」

タイキ「ありがとうドラコモン、君が地下を教えてくれたから助かったんだよ。」

明かりがついている地下。

ドラコモンがバグラ軍から逃げるために地下を作っていたため明かりがあった。

喜ぶドラコモンにキリハは・・・

キリハ「ふん、そんな力のないデジモン・・・。地下はただ逃げるためだけのものでいつかは戦わなくてはならない相手の戦力にはならない・・・。」

シャウトモン「んだとおお!？」

ドラコモン「・・・そう・・・だよね・・・。」

シュン「そういうお前のメタルグレイモン達はそうとうなダメージで動けないようだな。まあ、力のない奴にかぎって、強がるものなんだが。」

キリハ「っ……!! 黙れ……。」

鋭い指摘に黙るキリハ。

キリハ「……………そうさ……………。ドルビツクモン……………いや、七將軍にかなうデジモンなんか……………いない。これほどダメージを受けたメタルグレイモンはもう……………」

タイキ「(キリハがこんなに弱気になるなんて…………)」

シュン「だが……………父さんのダメージが大きい。1番の戦力こそ削られなかったが……………。タイキ、少ない戦力でアイツをどう倒すか……………」

タイキ「超進化……………超進化さえできれば……………」

タイキ、デジタルワールドへの帰還（後書き）

ここまでは同じですが・・・オリジナルストーリーになる予定です。

ドルビツクモン、究極の力

敵が追ってくる。

タイキ「くっ、ここにはいられない、出るぞ。」

そこにはドルビツクモンが待ち構えていた。

ファンロンモンと強制デジクロスして。

シュン「ドルビツクモン!!」

ドルビツクモン「3人のジュネラルが集まった・・・死ねい!!!」

腕を振りかざす。

タイキ「皆よけ・・・」

ドラコモン「いっけええええええ!!」

ドルビツクモンに飛びつくドラコモン。

ドルビツクモン「むおっ!?!」

シャウトモン「無茶するな!!ドラコモン!!」

ドラコモン「僕は強くなりたいんだ!!!!シャウトモンやブルーフレアのような・・・正義のドラゴンに!!」

ドルビツクモン「邪魔だあっ!!!!」

吹き飛ぶドラコモン。

シャウトモン「やめろおおおお!!」

シュン「リロード!!」

ウォーグレイモン「うおおおおおお!!」

メタルガルルモン「はあああああ!!」

ドルビツクモンに体当たりする。

ドルビツクモン「ぐあっ・・・!!っ・・・!こんな強き戦士を持っていたとは・・・さすがホーリーエンジェモンの息子。」

シュン「弱き者を相手・・・いや、ドラコモンは強い!!少なくともお前よりはな。」

ドルビツクモン「何っ!?!」

タイキ「そうだ!!ドラコモンには勇気がある。」

ズドオオオオン!!

ウォーグレイモン「ぐわあっ・・・!」

メタルガルルモン「っ・・・!」

シュン「ウォーグレイモン!!メタルガルルモン!!」

ドルビツクモン「俺を怒らせようとは・・・くらえっ!!」

「ランダムレーザー!!!!!!」

ミサイルが撃ち込まれる。

ドルビツクモン「ぐはあっ!!こ、これは・・・。」

ネネ「私はオハナモン!!これ以上アナタの好きにはさせないわっ

!!」

そこにはスパロウモンに乗ったネネが現れる。

タイキ「ネネ!!」

ドルビツクモン「ぐっ……く……糞……が……。」

シュン「今だ。」

シュン「ウォーグレイモン!メタルガルルモン!デジクロス!」

デジクロス!!!

オメガモン

オメガモン「だああああっ!!!!」

オメガモンのソードが迫る。

ドルビツクモン「むおおおおっ!!!!!!」

ネネ「きゃあっ!!」

スパロウモン「ネネエっ!!」

ドルビツクモンはネネを人質にする。

オメガモン「っ・・・!!」

キリハ「くそっ、ネネを放せ!!!」

タイキ「落ち着け、キリハ。」

タイキがつかんでいた腕を無理矢理振り払う。

キリハ「放せっ!!・・・ネネを放すんだ!!!リロード!!!」

ひん死のメタルグレイモンを出す。

シャウトモン「何やってんだ!? そんなことしたらメタルグレイモンが死んじゃう!!!」

ドルビツクモン「ちょうどいい・・・。」

ネネをつかんだまま、攻撃しようとする。

シャウトモン「させるかーあああ!!!ラヴィブレイカー!!!」

マイクで対抗する。

ドルビツクモン「そんなもので・・・俺に敵うものか!!!下手する
とこの女が・・・。」

ネネ「シャウトモン、私のことは気にしないで。」

それを見たキリハ・・・

キリハ「メタルグレイモン!!! シャウトモンをはじけ!!!」

ドラコモン「負けないで!!! シャウトモンーーーーっ!!!」

ドラコモンが叫ぶ。

メタルグレイモンが戸惑う。

キリハ「メタルグレイモン!!!」

するとシャウトモンが光る。

タイキ「よしっ!!! シャウトモン超進化!!!」

シャウトモン「シャウトモン! 超進化 ああああーーーーっ!!!」

Ωシャウトモン「Ωシャウトモン!!!」

キリハ「これが・・・超進化!!」

ドルビツクモン「何が超進化だ・・・!この女が・・・

シュン「オメガモン!!左を・・・左を貫けっ!!!!!!」

ドオオオオン!!!!!!

ドルビツクモン「ぐはぁあっ!!」

ネネを放す。

スパロウモン「怪我はない?ネネエ。」

ネネ「うん。・・・ありがとう、シュンくん。」

シュン「当然だ。」

タイキ「いまだΩシャウトモン!!」

ドルビツクモン「っ・・・。やれえものども!!!!」

手下が集合する。

シュン「強制デジクロスをさせるなっ！！！！」

オメガモン「ハッ！！！！」

ドンドン手下達を消していく。

タイキ「Ωシャウトモン！！」

ドドドドドン！！！！

Ωシャウトモン「ありがとな、ドラコモン。」

ドラコモン「え……。」

Ωシャウトモン「お前が応援してくれたから、進化できたんだ。」

手下達を残滅させる。

ネネ「これでも……アナタは戦うの？」

すると地面に亀裂が入る。

シュン「っ……！！！！」

ドルビツクモン「敵うからさ……！！！！」

Ωシャウトモン「完全に亀裂が入る前に……！！！！」

ドルビツクモンに迫るΩシャウトモン。

シュン「待て!! むやみに・・・!!」

ズガアアアアアン!!!!!!

シャウトモン「うわーーーーっ!!」

進化が解ける。

タイキ「シャウトモンっ!!」

ドラコモン「シャウトモン!!」

ドルビツクモン「はあああああ!!」

大爆発する。

オメガモン「くっ……。隠れろ!!」

オメガモンが4人を包んだ。

ドオオオオオオン!!!!!!

シュン「オメガモン!!」

クロスが解ける。

シュン「ダメージが・・・!! 戻れ!!」

クロスローダーに戻る。

。 シュン「・・・くっ・・・。ここまで戦力を削られるとはな・・・」

煙が止むとドルビツクモンの姿はない・・・。

皆を救う力！フェアリモン！

（タイキさん達が、いなくなってしばらく・・・。）

（ベルゼブモンさんら、クロスハートのメンバーは、私を逃がしてくれました。）

（スピリットの力もない私が・・・皆さんを救うことができるのでしょうか？）

チル「私にも・・・何か・・・。」

（捕まっている皆さん・・・。）

（私が・・・！私になんとかしないと・・・。）

しかし、無力な自分に涙が出てくる。

チル「うつ・・・!! うう・・・!! どうして・・・!! なんでも
なにも私は弱いのか!? 私だって・・・皆さんの力になりたい・・・
!!!」

(どうして・・・!? どうして私は・・・タイキさん達のようなジ
ェネラルじゃないのか!? ジェネラルなら・・・デジモンを使って戦
える・・・なのに・・・どうして・・・!!!!)

心が叫ぶ

すると・・・

ピカーカーッ!!!

辺りは真っ白になった。

「少女よ、キミにクロスローダーを託す。」

チル「今の・・・声は？」

手の平に、オレンジ色のクロスローダーがあった。

チル「クロスローダー・・・・・・・・。っ・・・・・・・・。これって・・・・・・・・。
・・・・・・・・。私を嘲笑っているのですか！？・・・・・・・・自分の無力さ
は痛いほどわかってるはず・・・・・・・・！！！！！！うあ・・・・・・・・ああ・・・・。
う、ひっく・・・・・・・・！！」
涙が止まらなかった。

チル「うあああ、ベ・・・・・・・・ルゼ・・・・・・・・ブ・・・・・・・・モ・・・・・・・・ン・・・・・・・・さ
んっ・・・・・・・・！！！！」

雫石がクロスローダーに落ちる。

チルの顔に風が吹き抜ける。

クロスローダーには・・・「風」とかかっていた。

チルはある伝説を聞いたことがあった。

チル「クロスローダー・・・そうだ・・・!!!! 私に・・・できる
ことがあった・・・!!!!」

クロスローダーに手を当てる。

光りがチルの体を包む。

チル「スピットエボリューション!!!!」

フェアリモン「フェアリモン!!!!」

フェアリモン「私にできること・・・それは、スピリットの力!!!!」

見張りのデジモンを倒し、

クロスハートの牢屋に行く。

ドルルモン「誰だ？」

フェアリモン「離れて!!」

キックで牢屋を壊すとドルビックモンの手下が襲ってくる。

フェアリモン「やあああああっ!!!!」

キックやパンチで、手下を一掃した。

バリスタモン「ナンデタスケタ？」

フェアリモン「私は・・・チルだからよ。」

ベルゼブモン「チル・・・なのか？」

ベルゼブモン「チル・・・なのか？」

フェアリモン「ええ、スピリットの力で……。私はもう、足手ま
といでも……。役立たずでもない。」

すると、ベルゼブモンが薄く笑う。

ベルゼブモン「お前は俺達の怪我を治してきたじゃないか。・・・
役立たずなんて思ったことない。」

フェアリモン「ベルゼブモン……。」

人間の状態に戻した。

チル「うつ……。あ、ありがとうございます。」

涙がまた溢れる。

ベルゼブモン「ドルビツクモンを倒しにいこう。」

しばらく歩いていた。

クロスハートの皆が。

ドルルモン「タイキ、無事でいろよ……。」

1番後ろ歩いていたチルは何かの気配を感じた。

チル「……!?!」

この気配は……?

チル「皆さん、先に行ってください。」

ドルルモン「……どうしてだ……?」

チル「心配いらないです、私にはスピリットがあります。」

ベルゼブモン「わかった、チル。」

そのままいく一行。

ワイズモン「キミも気配に気付いたのか……。」

ワイズモンがそう言った瞬間!!

ドドドン!!!!!!

目の前が爆発した。

レナモン「ここから立ち去れっ!!!!!!」

攻撃を仕掛ける。

ワイズモン「っ……!! 奴はレナモンだ。」

チルの体は光りに包まれる。

チル「スピリットエボリューション!!!!!!」

チル「フェアリモン！」

レナモンとのキックとパンチの応酬となる。

フェアリモン「だあああああ！……！！！」

レナモン「……………」

ドドドドドン！……！！

レナモンが距離をとる……。

（待てよ……確か、レナモンは……離れ技が得意なはず……
わざわざ接近戦を……？……まさか……！！）

ワイズモン「危ない！！フェアリモン！！」

フェアリモン「え……？……きゃあ……！！！」

気付いた時は遅く攻撃を受けた。

フェアリモン「う・・・！」

接近戦以外の技を持たないフェアリモン。

ワイズモン「これはまずい・・・！！」

「デス・ザ・キャノン！！！！」

ベルゼブモンの攻撃が決まりボロボロになった。

レナモン「ぐう・・・。。。」

フェアリモン「もう懲りたでしょう?」

レナモン「うう……。」

しかし、立ち上がるレナモン。

ベルゼブモン「俺の攻撃を受けて……。」

レナモン「あうあ……。」

光のひずみができ、苦しむ。

フェアリモン「いけない!!」

傷を癒し始めるフェアリモン。

レナモン「何故……。私を助ける……。?私はお前達を襲ったのだぞ?」

フェアリモン「私達は……。デジモンを殺さない……。バグラ軍のような真似はしない……。」

傷を癒しきると、

レナモン「今日のところは覚えていろ。」

そのままどこかにいった。

フェアリモン「レナモン……。」

そして……

ドルルモン「タイキ！」

タイキ「あ、皆ア!! チルちゃんも無事だったのか。」

皆の無事を確認しホッとするタイキ。

ネネ「良かったわね、タイキくん。」

シュン「仲間がふえたにせよ、油断はできない。」

ドーーーーーン!!!!!!

地面からドルビクモンが現れた。

ドルビックモン「今度こそ・・・お前達を倒す!!!」

キリハに届け！ドラコモンの誇り！

チルの体が光りに包まれる。

チル「スピリットエボリューション！！！！」

フェアリモン「フェアリモン！！」

姿が変わったチルに驚く。

タイキ「わぁ・・・!!すごい!!」

シュン「俺はスピリットの力を失ったがチルは・・・!!」

そう、コードクラウンの負のエネルギーにより一部のスピリットの力を失っていた。

しかし、伝説とされるフェアリモンのスピリットは負のエネルギーの影響を受けていないのであった。

フェアリモン「ドルビックモン!勝負よ!!」

ドルビックモン「ひ弱なデジモンが・・・!!」

キリハ「・・・・・・・・。。。」

(俺も同じだ・・・デジモンを見下していた。)

シュン「むやみに近づくなっ!!!!」

ズガアアアアン！！！

フェアリモン「きゃあああー！！！！！！！！！」

タイキ「くっ・・・！デジクロスだ！！！！」

皆が揃ったなか、進化よりデジクロスと判断した。

タイキ「シャウトモン！バリスタモン！ドルルモン！スターモンズ！スパロウモン！ベルゼブモン！デジクロス！！！！」

デジクロス！！！！

シャウトモン×5B

タイキ「いけえ！！×5B！！！！」

ドルビツクモン「ふうんむ!!!!」

攻撃を受け、吹っ飛ばされる。

タイキ・フェアリモン「×5B!!」

・・・そこへ

レナモン「ドルビツクモン様・・・。」

ドルビツクモン「レナモンか。」

フェアリモン「レナモン!!」

鋭い目でフェアリモンを睨むレナモン。

レナモン「助けたのが、運が悪かったな・・・。私は・・・ドルビツクモン様の手下だ。」

予想はしていた。

ドルビツクモン「強制デジクロスだ。」

フェアリモン「!?!」

レナモン「はい・・・。」

シュン「奴、強制デジクロスを受けるのか？」

強制デジクロスを受けたものは、意思を失い、死んだも同然なのである。

フェアリモン「レナモン！アナタはそれでもいいの！？決着を……つけるんじゃないの！？」

レナモン「……………」

黙るレナモン。

ドルビックモン「強制……」

フェアリモン「させない！！」

フェアリモンはドルビックモンに立ち向かう。

ドルビックモン「邪魔だ！！！！」

弾き返される。

フェアリモン「きゃあ！！！！」

タイキ「フェアリモン！！！！」

ドラコモン「僕は・・・弱いけど・・・誇りはある・・・！」

キリハ「ドラコモン・・・。」

ネネ「強いよね・・・ドラコモン・・・。」

ドラコモン「シャウトモンや・・・ブルーフレアのように強くなり
たい！！！！！」

ドラコモンが叫ぶ。

ドルビツクモン「黙れエ！！！」

ドルビツクモンの手が迫る。

全員「！！！」

サッ！！！

タイキ「キリハ！！！！」

キリハがドラコモンを抱き抱え、離れた。

ドラコモン「キリハ・・・。」

キリハ「届いたぜ、お前の思いと・・・誇りがな・・・。」

後ろに迫るレナモン。

ドラコモン「キリハ危ない!!」

キリハ「・・・!!」

しかし、

ドンッ!!

フェアリモンがレナモンを押す。

フェアリモン「アナタの相手は・・・この私よ!!」

キリハ「フェアリモン!! 頼んだ!! リロード、メタルグレイモン!」

回復したメタルグレイモン。

キリハ「俺達は忘れていた・・・。誇りを・・・だが! ドラコモン

を見て・・・思い出した！！大切なのは強さじゃない！！！！誇りだ
あああ！！！！」

メタルグレイモンとクロスローダーが光りZの文字が浮き出る。

タイキ「キリハ！！あれが超進化だ！！」

キリハ「メタルグレイモン！！超進化！！！！」

メタルグレイモン「メタルグレイモン！超進化あああああーっ
ーっ！！！！！！」

Zグレイモン「Zグレイモン！！！！」

ドルビツクモン「なにっ．．．！！レナモン！！強制．．．

Zグレイモン「トライデントフアング！！！！！」

ズガアアアアン！！！！

ドルビツクモン「ぐはあ！！！！あ．．．！！う．．．！なんという．．．！！！」

ズガアアアア！！！！

もう一度、Zグレイモンの攻撃を受け、消滅した。

タイキ「やった．．．、勝てたんだ．．．。」

フェアリモン「きゃあああ!!」

タイキ「この悲鳴は!!」

ネネ「フェアリモン!!!!」

フェアリモンとの格闘、レナモンの迷い

レナモン「ドルビツクモン様を倒したお前達は許せない!!」

フェアリモン「っ・・・!!」

レナモンの攻撃をギリギリでかわす。

フェアリモン「早い・・・!!」

シュン「レナモン程度の相手に苦戦しているのか。」

タイキ「そんなこというな、シュン!!」

シュン「奴はドルビツクモンの手下……。手下相手に苦戦していたら、ドルビツクモンに敵うわけがない。」

タイキ「でも、フェアリモンはフェアリモンなりに頑張ってる!!。力が全てじゃないって知ってるだろ!？」

シユン「ああ、だから……奴がドルビツクモンに挑むのは野暮なんだ。」

ドドドドドッ!!

フェアリモンがパンチとキックで攻める。

フェアリモン「ハア、ハア、ハア……。もうやめよう……。レナモン……。」

レナモン「…………。」

レナモンが攻撃をやめる。

フェアリモン「アナタはなんのために戦うの!？」

レナモン「ドルビツクモン様の仇だ。」

フェアリモン「ドルビツクモンなんかは何故、つくすの……?」

レナモン「つ……!!……私にできることは……。ドルビツクモン様の仇をとるのみだ!……!」

フェアリモン「アナタの力を……。デジタルワールドの平和のため

につかいたくないの!？」

レナモン「……………。私に……そんな資格などない……!」

フェアリモン「資格……!？」

ハツとするレナモン。

レナモン「私としたことが……。やあああああ!!!」

攻撃を放つ。

フェアリモン「しまった……。!!」

(よけられない……。!!!)

タイキ「フェアリモン!!!」

タイキがこちらに走ってくる。

ドオオオオン！！！

シャウトモン「っ・・・！！タイキ！」

ネネ「タイキくん！！」

キリハ「タイキッ！」

そこにはナイトモンとポーンチェスモンがおり、盾で防いだ。

シュン「やはりか・・・。」

シャウトモン「んだよ！！心配させやがって。」

タイキ「あはは。」

少し笑うとタイキは真剣にレナモンを見る。

レナモン「・・・なんだ？」

タイキ「フェアリモンと話したとき・・・攻撃する時間はあった。それに・・・今も。・・・なのになんで何もしないんだ？」

するとレナモンは顔をそむける。

タイキ「本当は・・・何かあるんだろ？」

レナモン「・・・何もない・・・。あったとしてもお前に話す必要などない。」

タイキ「「資格」ってなんだよ？正義に「資格」なんかない・・・。
俺達と来ないか？」

レナモン「黙れっ!!！」

ホーリーエンジェモン「シュン、俺をクロスローダーから出してく

れ。」

シュン「でも傷が……。」

キュートモン「僕が治すキュー!!」

シュン「わかった。……リロード。」

リロードされるホーリーエンジェモン。

ホーリーエンジェモン「レナモン! お前はあの時のレナモンだろ?」

レナモン「アナタは……、ホーリーエンジェモン様!？」

タイキ「・・・？」

フェアリモン「レナモン・・・。」

ホーリーエンジェモン「あの時のことをまだ気にしているのか・・・？それに、何故ドルビツクモンの手下などになった？」

レナモン「・・・それは・・・。」

顔を下げるレナモン。

ホーリーエンジェモン「まさか、お前はバグラ軍と契約したのか？」

レナモン「っ・・・！！！」

「ふははははは、どうやら潮時みたいだねえ・・・。」

そこに降り立つのは……

ネネ「ダークナイトモン!!!!」

シャウトモン「おめえ……!!」

ダークナイトモン「契約を交わしたのは私だよ。」

ホーリーエンジェモン「何っ!？」

ダークナイトモン「さあ、私からの命令だ!! ホーリーエンジェモンを殺せ!!」

シュン「やらせるか！……リロードッ！！ウォーグレイモン、メタルガルルモン！！」

ドオオオン！！！！

2体が体当たりする。

レナモン「ぐあああ！！！」

ウォーグレイモン「ガイア……」

するとフェアリモンが立ちふさがった。

レナモン「！？」

ウォーグレイモン「どけ。お前自身も危ないぞ」

フェアリモン「いやよ、だって……レナモンをなんで殺すの？

何か・・・あるかもしれないじゃない!!!!」

シュン「構うな!・・・ウォーグレイモン!メタルガルルモン!デジク・・・」

ネネ「お願い、やめて、シュンくん・・・。」

ネネがシュンのクロスローダーに手を置く。

シュン「ネネ・・・。」

ネネ「ダークナイトモンはきっと、私と同じ・・・レナモンと危険な契約を交わしているのだわ・・・。もう少し待って!!!」

シュン「・・・。。。」

シュンはクロスローダーを下げた。

ウォーグレイモン「ホーリーエンジェモン様の脅威・・・倒さざるおえない。」

フェアリモン「待ってよ・・・!! レナモンはきつとネネと同じように脅されているんだわ。」

タイキ「ウォーグレイモン、メタルガルルモン・・・。フェアリモンの言うとおりで。」

するとウォーグレイモンはチラリとシュンを見る。

シュン「ただ、ここにはダークナイトモンがいる・・・。油断はできないな。」

ダークナイトモン「ふはは!! レナモンよ・・・弱ったホーリーエンジェモンを殺すことなどたやすいだろ。」

レナモン「うう・・・!!」

目をグッと瞑った。

ダークナイトモン「・・・契約だぞ。」

パツと目を開けるレナモン。

レナモン「うあああああああ!!!!」

攻撃を放つ。

それがウォーグレイモンとメタルガルルモンをすり抜けた。

ウォーグレイ・メタルガルルモン「しまった!!」

タイキ「間に合えーーーーっ!!!!」

ホーリーエンジェモン「!!!!」

ドガアアアン!!!

タイキ「うつ・・・わああ!!!!」

ホーリーエンジェモンを庇い吹き飛んだ。

シュン・キリハ・シャウトモン「タイキ!!」ネネ「タイキくん!
」

タイキ「ぐう……。」

ホーリーエンジェモン「大丈夫か!？」

レナモン「ぐっ……。うあ……。!!うあああああ!!!!」

フェアリモン「苦しんでいる……。苦しんだわ……。」

ダークナイトモン「早くしたまえ!!」

ネネ「ダークナイトモン!!!!!!私はアナタを許さない!!!!弱みに
つけこんで……。!!」

ダークナイトモン「さあ……。レナモン!!!!」

すると

ドガアアアアン!!!

ウォーグレイモン「!?!」

ダークナイトモン「っ……!! レナモン……何を……」

そう、……レナモンが攻撃したのはダークナイトモン。

レナモン「私は……もう迷わない……。このクロスハートと

ブルーフレアとグリーンエア達の絆!!!」

ダークナイトモン「いいのか……。大切な存在の再生をしなくて・
・・！」

レナモン「いいのよ、アナタのような奴に再生されたデジモンは・
・喜ばない。」

ホーリーエンジェモン「レナモン・・・。」

レナモンはダークナイトモンにらんだ。

レナモン「それに、私は守りたいものを見つけた……。それ
は。。。。。

(それは。。。!!!!)

レナモン「フェアリモンだ!!!!」

フェアリモン「。。。レナモン。。。!!」

ダークナイトモン「ふははははははっ!!!!!!ネネ!!」

ネネ「!!」

ダークナイトモン「ユウは私の手の中にいる……。」

ネネ「私は……アナタにだまされない……。!! 私は私でユウを救う!!!」

ダークナイトモン「ふは……。フハハハハハッ!!!!!!」

そのままダークナイトモンは消えていった。

旗にはクロスハートとブルーフレアとグリーンエアの象徴があった。

タイキ「うう……。」

シャウトモン「タイキ!!大丈夫か?」

タイキ「うん。」

すると皆がホッとため息を吐いた。

シュン「全く、無茶な奴だな。」

タイキ「あれ?レナモンは?」

キリハ「あれだ。」

キリハが指をさす。

その先は・・・

チル「私はチル、クロスハートよ。」

レナモン「私は・・・レナモンだ・・・。」

チル「改めましてよろしくお願いします。レナモンさん。」

レナモン「パートナーなんだ……。さんなんか……。」

チル「なら、レナモン……。よろしくお願いします。」

レナモン「いや、敬語はやめろ。」

変身前のチルに苦戦するレナモン。

タイキ「パートナーか。」

キリハ「一緒にくるか？ドラコモン。」

ドラコモン「うん。」

リリモン「私はタイキくんの。」

ネネ「もうチーム分けはいいじゃない。皆で行動するんだから。」

キリハ「俺もか？」

シュン「俺はどちらでもいい。ただ、こういう時、戦力が必要だ。」

タイキ「よし！次のランドに出発だ！！」

ヴァンヴァイアランド！恐るべき脅威！

レナモン「すまない、タイキ……。攻撃などをして。」

するとタイキは首を振った。

タイキ「いいよ。受けた時はものすごい衝撃で気を失ったけど、今はなんの痛みもないぞ。」

チル「きつと、心がぶれた状態で攻撃したから、100%の攻撃には至らなかったんですよ。」

シュン「……。出口が見えてきたぞ。」

タイキ「……。ここは……。」

ここは、真っ暗で夜のようだった。

キリハ「暗いところだな。」

シャウトモン「このデスジェネラルは誰なんだ？」

ネネ「それなら、私が。リロード、モニタモン。」

モニタモンA「任せてください、ネネ様!!」

モニタモンB「私が様子をみますわ。」

ネネ「よろしくね。」

タイキ「そういえば、レナモン。ホーリーエンジェモンとはどんな関係なんだ？」

レナモン「・・・私は・・・バグラ軍からホーリーエンジェモンの軍団達を守ってくれた。いわば恩人だ。」

タイキ「・・・再生とか気にしているとか・・・何があったんだ。」

するとレナモンは黙り込む。

ホーリーエンジェモン「シュン、俺をリロードしてくれ。」

シュン「わかったよ、リロード。」

リロードされるホーリーエンジェモン。

ホーリーエンジェモン「レナモン!!!・・・あの時のことはとつくにすぎたんだ。」

レナモン「アナタにご迷惑をおかけし、申し訳ありません。」

ホーリーエンジェモン「そうじゃない、レナモン。」

レナモン「私が守れなかった・・・それだけです。」

タイキ「・・・・・・・・。」

（守れなかった・・・!? やっぱり、レナモンの過去には何かある。）

シュン「父さん、レナモンとは何があったんだ？」

するとレナモンが目を瞑った。

ホーリーエンジェモン「彼女のことを考えると・・・言わない方がいい。」

チル「・・・・レナモン・・・・。」

ネネ「モニタモン！！モニタモン！！」

モニタモンの映像が砂嵐になる。

キリハ「これは何かあったな。」

すると・・・

「た・・・・すう・・・・けえ・・・・て。」

ひゅう、と風が吹き、声が真つ暗闇に消えていく。

シャウトモン「不気味だな・・・・。」

キュートモン「ドルルモン、怖いっキュ。」

ドルルモン「俺はこわくねーぞ。」

シャウトモン「とか言っちゃって！！ほんと怖癖に！！」

キリハ「はんっ、くだらない。」

シュン「クロスハートは一々やかましいな。」

するとモニタモンが戻ってくる。

ネネ「モニタモン、心配したのよ。」

モニタモンB「ごめんなさい、ネネ様。でもこの国のデスジェネラルとランド名がわかりましたわ。」

この国の名前はヴァンパイアランドですわ。

デスジェネラルはネオヴァンデモンですわ。

この国の暗闇はデスジェネラルがいるからですわ。

タイキ「・・・なるほど。」

ロップモン「助けてーっ！っ！」

レディデビモンA「待ちな、ロップモン!!」

レディデビモンの大群がロップモンを追いかけていた。

ロップモン「ひい、やあ・・・ああ・・・っう!!」

シャウトモン「噂をすれば、ってどこか!!」

チラッとタイキを見る。

タイキ「ああ!!行くぞ。」

タイキ「シャウトモン!バリスタモン!ドルルモン!スターモンズ!!デジクロス!!!!」

デジクロス!!!!

シャウトモン×4

レナモン「やああああっ!!!!」

レディデビモンの大群の真ん中に攻撃する。

分散されるレディデビモン。

×4「逃がしはしないぜ!! バーニングスタークラッシュアアア
ッ!!!!」

ズドオオオオン!!!

ネネ「こっち私が!!」

スパロウモン「ランダムレーザー!!」

ドドドドン!!

キリハ「ここは任せろ!! グレイモン! メールバードラモン! デジ
クロス!」

デジクロス!!!!

メタルグレイモン「ギガデストロイヤー！！！！」

ズガアアアン！！

レディデビモン達の悲鳴が上がる。

チルの体が光に包まれる。

チル「スピリット・エボリューション！！」

フェアリモン「フェアリモン！！」

レナモン「フェアリモン、行くぞ。」

フェアリモン「ええ。」

ガガガガン！！！！

攻撃範囲こそ狭いものの確実に敵を倒した。

ホーリーエンジェモン「ヘブンズゲート!！」

レディデビモン達「うあああ!！」

絶対抜けられない亜空間に閉じ込められる。

シュン「……………これで全部だな。」

ロップモン「助かった、ありがとうございます。」

シャウトモン「いーってことよ!！」

ポンポンとロップモンの肩を叩いた。

タイキ「……………狙われてたみたいなんだけど、どうしたの?」

するとロップモンは下を向いてしまう。

シュン「タイキ、ここは誰かにすぐ見つかる、……………違う場所であろう。」

タイキ「ああ。」

そしてロップモンが話す。

ここのデスジェネラルはロップモンをエネルギー源としているのだと。

そして、ロップモンをとらえようとしていることを。

タイキ「そうなんだ……。」

ロップモン「友達もみんな、捕らわれてエネルギー源にされちゃったんだ……。」

シャウトモン「ゆるせねえっ!!!!」

シャウトモンが叫んだ。

シャウトモン「命をなんだと思っていやがるんだっ!!!!」

シュン「しかも、ロップモン一匹を大群で襲うとは……卑怯な。」

キリハ「今すぐにでも、倒すぞ。」

タイキ「待ってよ、キリハ。そんな急いだって。」

キリハ「俺にはな、俺のやり方があるんだ。」

シャウトモン「あぁん！？逃げんのかよ！？」

しかし、シャウトモンの言葉を無視したメイルバードラモンに乗った。

ネネ「キリハくんっ！！」

そのままいってしまった。

タイキ「キリハっ！！待ってよキリハっ！！！！」

シュン「あんな奴、ほうっておけ。」

タイキ「できないよっ！！！！」

シャウトモン「ほうつとけよ、タイキ！！」

しかし、タイキはずっとキリハが行った方向を見ていた。

シュン「タイキ、タイキ!!!」

タイキ「ハッ!!」

シュン「人の話、聞いてるのか？」

タイキ「いや、・・・ごめん。」

ハアとため息を吐いた。

シュン「ギリハのことだろ。お前はお人よしすぎるんだ。そんなすぐれた能力を持ちながら・・・。」

タイキ「・・・で、どんな作戦？」

シュン「奴、デスジェネラルがロップモンをエネルギー源にしているのなら、ロップモンを捕らわれないようにするのが先決だ。パワーアップでもされたら困るからな。・・・それに、また、奴等はロップモンを狙ってくる。」

ネネ「そこでチルちゃんと私達が戦ってロップモン達を守っているかのように見せかける。」

シュン「そこで、俺とタイキ、そしてロップモン達を引き連れ、城に行く。」

ネネ「そして、タイキくん達は棺で眠っているデスジェネラルを起こさないよう、城を破壊して・・・」

シュン「起きたところを一気に叩く。・・・まあ、これはただの目安だ。作戦の変更なら、ネネに言ってくれ。」

タイキ「でも・・・なんか心配だなあ・・・。ロップモンを連れて行くんだよな。」

シュン「ああ、ホーリーエンジェモンの指揮はネネに取らせる、心配するな・・・それともネネと俺を交代でもするか？」

タイキ「えっと・・・。」

シュン「デスジェネラルを叩くのは巨大な力が必要だ。」

シャウトモン「つたく!! キリハって奴は!!」

キリハ「メタルグレイモン、あのバリアを破れ。」

メタルグレイモン「ギガデストロイヤー!!!!!!」

ズドオオオオン!!!!

しかしものともしなかった。

キリハ「ツチ!!!なら、超進化だ!!!」

しかし、何も起こらない。

キリハ「ツチ……。」

いつの間にか、敵に囲まれた。

ネオヴァンデモン「私の眠りの邪魔をするのはお前か？」

キリハ「……っ!?リロードっ!!!サイバードラモン!」

サイバードラモンに乗るキリハ。

ネオヴァンデモン「ふふ、ふはははは!!!!」

レディデビモン達が襲う。

メタルグレイモン「ギガデストロイヤー!!!!」

ズドオオオオオン!!!!

敵を一掃する。

ネオヴァンデモン「十分な素質の持ち主だな……蒼沼キリハ……」

・。
」

ギユウオオオオツ!!!!

逆風が吹く。

キリハ「な……んだ……。。」

メタルグレイモンが吸い込まれる。

キリハ「メタルグレイモン!!!! エネルギー源になっているのはロツ
プモンだけじゃないのか!?!」

そのままメタルグレイモンは吸収される。

キリハ「メタルグレイモン!!!!!!」

ネオヴァンデモン「終わりだ!!!!!!」

ズドオオオオオオン!!!!!!

辺りが爆発する。

爆風で吹き飛ばすキリハ。

キリハ「ぐわあああああー……っ!!!!!!」

フェアリモン「大変!!」

ベルゼブモン「タイキ達に知らせないと・・・!」

するとフェアリモンの背中にいるレナモンが何かの気配に気づく。

レナモン「!？」

敵に囲まれていた。

ベルゼブモン「デス・ザ・キャノン!!」

ズドオオオオン!!!

しかし、そのレディデビモンの多さは異常だった。

ベルゼブモン「大変だ、タイキ。敵に囲まれた。・・・それに・・・

キリハが。」

リスターで伝える。

タイキ「・・・キリハが!？」

テリアモンとロップモン

ズドーン！！！！

ベルゼブモン「なんて数だ。敵の本拠地だけあるな。」

フェアリモン「私達だけじゃ、倒し切る前に力つきちゃうわ。」

レナモン「だが、ここからどうやって抜け出す？」

辺りはレディデビモン軍団、突破できそうにない。

フェアリモン「っ！！こうなったら・・・。」

レナモン「フェアリモン、何するきだ！？」

キックの体制をつけた。

フェアリモン「強行突破よ！！！！」

ドドドドドドッ

一気にレディデビモンを蹴散らし抜け出した。

レナモン「待て、ベルゼブモンが・・・！！」

ベルゼブモン「デス・ザ・キャノン!!!!」

ドーン!!!!

フェアリモン「ハア、助かった……。」

レナモン「ただ、様子を見に行っただけのはずなのだが……。」

フェアリモン「ギリハ、大丈夫かしら。」

すると下から声が聞こえる。

うまく聞き取れない。

フェアリモン「タイキかしら。」

ベルゼブモン「降りるぞ。」

地面へと降りた。

タイキ「ベルゼブモン！！フェアリモン！！レナモン！！」

ベルゼブモン「タイキ！！」

ロップモンを連れた、タイキとシュンが来ていた。

ベルゼブモン「作戦は決行か。」

シュン「ああ。」

フェアリモン「私とレナモンはタイキ達についていくわ。」

ベルゼブモン「俺は戻って、ネネ達の援護をする。」

タイキ「ああ、任せたよ。でも、キリハは・・・。」

うつむくタイキ。

シュン「キリハの無事を確認なんかしていたらこちらも危ない。タイキ、ともかくロップモンを守りつつ、今の敵の状況を確認しよう。そしてから、作戦を考える。」

シャウトモン「キリハなんか自業自得だぜ！？」

キリハ「・・・っん・・・う・・・。メタル・・・グレイ・・・モン・・・。」

すると足音が近づく。

タイキ「キリハアアアアーーーーっ！！！！」

ボロボロで倒れてるキリハ。

キリハ「ん・・・うう・・・う・・・。タイキ・・・。」

タイキ「キリハッ！！大丈夫か！？！」

するとタイキを静止させ、前に出るシュン。

シュン「・・・大丈夫だ、外見では、致命傷は負っていない。」

キリハ「う・・・うう・・・。メタル・・・グレイ・・・モン・・・は・・・？」

タイキ「メタルグレイモン？」

キリハ「メタル・・・グレイモンが・・・吸い込まれ・・・た・・・」

全員「！！」

フェアリモン「あの、逆風はメタルグレイモンを取り込むための・・・」

ロップモン「そんな・・・、ロップモンだけを取り込むんじゃないの？」

キリハ「っ・・・！！こうなったのもお前のせいだ・・・」

シャウトモン「あんだとー！？だいたい、勝手に行動して、こんなったのは自業自得じゃねえか！！」

するとシュンも口出す。

シュン「自分の失敗を他人になすりつけるとは・・・。このランドは特別、デジモンの種類が少なかった。だから、その中でロップモンが1番になり狙われていた。・・・デスジェネラルは素質の高いデジモンを狙っていたのだろう。・・・キリハ、お前は最低だ。」

キリハ「黙れ・・・っ！！」

シュン「ロップモンだけでなく、仲間も取り込まれないようにしていたら戦えない。どうする？」

タイキ「うー．．ん。」

キリハ「っ．．．う．．．ぐっ．．．」

タイキ「大丈夫か？キリハ？」

シュン・シャウトモン「！？」

タイキはキリハに手を差し伸べた。

キリハ「シュンやシャウトモンにここまで言われた俺に．．．」

タイキ「確かに、キリハの自業自得だけど．．．俺、ほっとけないよ．．．。キリハが．．．苦しんでいるところ。」

シャウトモン「タイキ．．．」

シュン「ハア、工藤タイキとは、困ったほどにお人よしだな。」

すると．．．

シュン「何者かの気配がする！！リロードッ！！」

ウォーグレイモン「おおおおっ！！」

メタルガルルモン「シュン様に指一本も触れさせるか！！」

フェアリモン「あああ、あああっ!! デスジェネラルよ!!」

ドオオオオオオン!!!

光線が迫る。

タイキ「逃げられ・・・

デジクロス!!!

オメガモンが盾で防いだ。

タイキ「もうデジクロスに・・・。」

ネオヴァンデモン「・・・オメガモンとは・・・なんて素晴らしいデジモン。」

逆風が吹いた。

タイキ「うう・・・あ!!」

吸い込まれていくオメガモン。

オメガモン「っ・・・!! 吸い込まれるものか・・・!!」

シュン「オメガモン!!!・・・くっ・・・!!」

しかしドンドン吸い込まれていく。

シャウトモン「なんとかできないのかよ!？」

タイキ「落ち着け、シャウトモン。下手したらシャウトモンまで・
・。」

シャウトモン「じゃあ、どうするんだよ!？」

すると、シュンのクロスローダーが光る。

「僕、戦えるよ。」

シュン「お前は・・・誰だ・・・？」

「忘れちゃってた・・・？」

シュン「まさか・・・お前・・・？」

「僕、いいこと考えたんだ・・・。」

シュン「わかった、リロード!！」

テリアモン「テリアモン!！」

フェアリモン「わぁ、かわいい♪ロップモンみたい♪」

耳でふわふわと飛ぶテリアモン。

ネオヴァンデモン「し、．．．白のロップモンか!? いや、ただのテリアモンか。驚かせやがって．．．。」

タイキ「．．．?」

(白の．．．ロップモン．．．?)

シュンのクロスローダーが光る。

テリアモン「テリアモン、進化!」

ラピッドモン「ラピッドモン!」

ド
ド
ド
ド
ド
ド
ン！！！！

ネオヴァンデモン「ぐは．．．っ！！ああ．．．！！なんだ．．．この力は．．．。まさか．．．．

チラリとロップモンを見る。

ネオヴァンデモン「白のロップモン……？」

タイキ「え……?」

ロップモンが白く光る。

ラビットモン「うおおおおおおおおおっお!!!」

ネオヴァンデモン「えええいっ!!!目障りだっ!!!」

地面にたたきつける。

「うわあああ！」

「ラピッドモン……オメガモンッ!!」

オメガガモン「ああ……！！」

オメガモンが、ネオヴァンデモンに近づき、剣を刺そうとする。

ネオヴァンデモン「良いのか・・・？このまま攻撃すれば、取り込まれたメタルグレイモンとロップモンの命はないぞ。」

キリハ「!？」

オメガモン「・・・っ!!！」

その様子を見たタイキが・・・

タイキ「一度引き下がるぞ。」

シュン「っ・・・。。仕方ない。戻れ、オメガモン、ラピッドモン。」

白いロップモンとテリアモンの決断

タイキ「ねえ、ロップモン……。白いロップモンって？」

ロップモン「……。僕が……。白の……。ロップモン……。？」

テリアモン「そうだよ、だってキミ、白く光ってたじゃないか。」

ロップモン「……。。。。」

するとテリアモンの下で立ち止まるシュン。

テリアモン「ひどいよお、シュン。僕を忘れるなんて。僕、強かったでしょ？」

シュン「ああ、放置していたのは謝る。すまない。」

テリアモン「いいよ！」

パタパタと飛び、シュンの頭の上に乗った。

テリアモン「これからは、1人にしないでね。」

シュン「……。ああ。」

ニコツと笑った。

テリアモン「シュンってかわいいね。」

タイキ「・・・それにしても、・・・ネオヴァンデモンは白いロ
ップモンにおびえていた。」

シュン「何かあるんだろうな。」

そこへ・・・

チル「あ、ネネさん!!」

ネネ「タイキくん、シュンくん、キリハくん!!」

タイキ「無事？」

ネネ「ええ、ある程度は戦力を減らしておいたわよ。・・・キリハ
くん、大丈夫？」

キリハ「・・・ああ、なんとかな。」

タイキ「ネネ、重要なことがわかったんだ。ネオヴァンデモンはこ
の特別なロップ・・・

ズドオオオオオン!!!!!!

シュン「どうやら、攻め込んで来たらしいな。」

地面が大きく揺れる。

ネネ「私達は、住民を誘導するわ。タイキくん達は抑えておいて！
」

そのままネネは行ってしまった。

タイキ「あ、待って！！ネネ・・・！！」

姿はもうない。

シュン「……………攻撃するにしても…………ネオヴァンデモンが言
ってたな……………」

テリアモン「あいつを攻撃すると、中にいるデジモン達も……………」
」

シュン「ともかく、テリアモン、進化だ。」

テリアモン「テリアモン、進化！」

ラピッドモン「ラピッドモン！！」
」

ネオヴァンモン「さあ、お前達を始末する時が来た!!」

シャウトモン「メタルグレイモン達のこともあるけどよお、せめて、防戦くらいさせてくれよ、タイキ。」

タイキ「・・・わかった。」

タイキ「シャウトモン! バリスタモン! ドルルモン! スターモンズ!
! ナイトモン! ポーンジェスモンズ! デジクロス!!!」

デジクロス!!!

シャウトモン×4 K

ドドドドドン!!!

シュン「まさに、防戦一方だな・・・。このままだと力尽きる!!
やれ、ラピッドモン!! お前の力なら、ロップモンを傷つけずに済
むはずだ。」

キリハ「まさか・・・!! お前・・・!! メタルグレイモンを犠牲にしていると思っているのか!？」

シュン「そもそもこれはお前のせいだ。・・・お前さえやらかしていなければ・・・。このままにすれば・・・もつと犠牲が増えるだけ!!! メタルグレイモンも・・・そう望んでる!!!!」

キリハ「なんだと!？」

シュンの胸ぐらをつかむキリハ。

チル「やめてください、キリハさん!」

キリハの腕をつかんだ。

キリハ「放せっ!!」

チル「きゃっ!!」

レナモン「チル!!・・・キリハ、やめろっ!!」

シュン「・・・卑怯者が・・・。」

キリハ「何・・・?」

シュン「卑怯者や、臆病者は・・・そうやって自分の弱さを隠すんだよ。」

キリハ「なんだと!？ お・・・俺は・・・弱くなんか・・・ないっ・

・・!! 弱いも者は・・・生きている価値なんかないっ!!」

するとシュンは黙ってキリハを投げ飛ばす。

タイキ「シュン!!」

シュン「弱いもの強いもの・・・誰が決めた!!???・・・考え方によれば俺は強い、そして弱い。・・・そういうものだろう!!? ?・・・生きている価値のない生き物は・・・命を大切にしない・・・っそういう奴だけだっ!!!!」

キリハ「お前だって・・・お前だって・・・。メタルグレイモンを!!!!」

シュン「そうなったのもお前のせいだ。・・・それにこのままほうっておけば、ランドが・・・世界が・・・その世界そのものに犠牲を払うことになるっ!!!!」

するとタイキが仲裁に入る。

タイキ「確かに、シュンの言うこともわかる・・・。けど・・・確かにキリハの捨てきれない気持ちもわかる・・・。だから・・・他の方法を導きだしたいっ!!!!」

シュン「タイキ・・・。」

タイキ「・・・なんて、何も浮かんでないけど。」

シュン「フツ・・・フフツ・・・。お前には負ける・・・。お前は純粹すぎるな・・・。」

ドドドドン！！！！

爆発が起き、クロスと進化が解け、散らばり吹っ飛んだ。

シャウトモン「ぐああああ！！！」

テリアモン「うわあっ！！！」

タイキ「皆！！！」

シュン「テリアモン！！！！！」

すると・・・

ロップモン「やめてえええええええ！！！！！！僕が・・・僕が行けば・・・それでいいんでしょう！！！！！」

テリアモン「ダメっ！！ロップモンーーーーっ！！！！！！！」

ギョオオオオオッ！！

シャウトモン「っ・・・！！！！！！ロップモーーーーン！！！！！！！」

ネオヴァンデモンに吸収されるロップモン。

シャウトモン「うおおおおおおお!!」

テリアモン「待ってて・・・! ロップモン!!」

そのままロップモンを追い、シャウトモンとテリアモンも吸収される。

タイキ「シャウトモンっ!!」

シュン「テリアモンっ!!」

キリハ「・・・っあ・・・!! メタルグレイモンっ・・・!!
聞こえるかあああああああっ!!」

ドーン!!!!

辺りが炎に包まれる。

レナモン「チル、進化だ。」

チル「はい。」

チルの体が光に包まれる。

チル「スピリットエボリューション!!」

フェアリモン「フェアリモン!!」

シュン「リロード、……そして……デジクロス!!」

オメガモン「うおおおおとおおお!!」

シュン「さらに、リロード、父さん!!」

ホーリーエンジェモン「シュン、どうする……。」

シュン「……タイキ、お前は甘い。」

タイキ「!?!」

シュン「…………。すまない、テリアモン…………。やっと出てこれたのに…………。」

タイキ「まさか、…………シュン!!!!!!」

ビカアアアアアアッ!!!!

ネオヴァンデモンが強く輝く。

ネオヴァンデモン「ぐは…………ああ…………。」

思わず立ち止まるオメガモンとレナモンとフェアリモン。

テリアモン「テリアモン、進化!!」

セントガルゴモン「セントガルゴモン!!!!!!」

吐き出されるシャウトモンとメタルグレイモン。

シュン「今だ！……行け！！セントガルゴモン……………」
？」

セントガルゴモン「う…………う…………」

シュン「まさか…………」

涙を見せるセントガルゴモン。

セントガルゴモン「…………あの中に大量にいる…………ロップモン…………達は…………死ななきゃいけないんだ…………」

シュン「…………お前は…………白のロップモンの力で…………進化したのか…………」

セントガルゴモン「そうだよ…………」

シュン「…………。お前の力は託された力だ…………。倒さないと…………苦しいだけ。」

セントガルゴモン「う…………う…………う…………う…………」

シュン「そう…………皆のために…………ロップモンの…………ため…………に…………」

するとロップモン達の声が聞こえる。

ロップモン「約束して、クロスハート、グリーエア、ブルーフレア・
……。僕達を世界を……。平和にして……。僕達を……。倒
す代わりに……。」

シャウトモン「くっ……。そおおおおお!!!!!!犠牲を……。
犠牲を出してまで……。え!!!!!!」

セントガルゴモン「……………」

ロップモン「苦しいよ……。平和じゃない世界が……。僕達を・
……。倒して……。優しい平和の世界にして……。」

セントガルゴモン「……………うん……………」

ズガアアアアアン!!!!!!!!!!

ネオヴァンデモンとの最終決戦

セントガルゴモン「……………ごめんね…………。ロップモン・
…………。」

ロップモン「まだ終わってないっ!!!」

ネオヴァンデモン「甘い!!!」

ドドドドドドッ!!!

吹っ飛ぶセントガルゴモン。

シュン「っ……!! セントガルゴモン!!!!!!」

シャウトモン「うおおおおお!!」

タイキ「シャウトモン、超進化!!」

シャウトモン「シャウトモン、超進化あああああ—————
——っ!!!!!!」

Ωシャウトモン「Ωシャウトモン!!」

タイキ「セントガルゴモンを援護だ!!」

ネオヴァンデモン「フハハハハッ!!!!!!」

ドーン! ドーン!!

戦っているタイキ達を見ているキリハ。

するとクロスローダーから・・・

ドラコモン「キリハ、見てるだけでいいの？キリハーーーーっ！！」

キリハ「・・・・俺には・・・・。」

ドラコモン「キリハーーーーっ！！」

涙声になっているドラコモン。

横から・・・

レナモン「戦いに資格などない。」

キリハ「お前は、・・・・レナモン！！」

レナモン「本当に見ているだけでいいのか・・・・？」

Ωシャウトモン「ぐわああああっ！！」

苦戦しているΩシャウトモン。

レナモン「お前は・・・それで・・・。」

ドーン！ドーン！

レナモン「・・・私は戦う！！」

チル「私も。」

チルの体は光に包まれる。

チル「スピリットエボリューション！」

フェアリモン「フェアリモン！」

フェアリモン「やああああああ！！」

レナモン「はあっ!!!!」

しかし地面が大きく揺れ、岩が浮く。

フェアリモン「何・・・? きゃあああっ!!!!」

岩が直撃し、下から雨のように直撃していく。

レナモン「フェアリモン!!!!っ・・・あああっ!!!!」

ネオヴァンデモン「砂地獄ならぬ、岩地獄だ。」

その中で吹っ飛んできたレナモン。

キリハ「レナ・・・モン・・・。」

レナモン「ぐう・・・。。キリ・・・ハ・・・。。本当に・・・それで・・・いいのか・・・。」

キリハ「・・・っ。」

レナモン「私は・・・この身が消えても・・・この・・・デジタルワールドを・・・救う・・・。フェアリモンが・・・そうなの・・・。」

目を閉じるレナモン。

キリハ「レナモン！？レナモンっ！？」

（くっ……。レナモン……。！！）

キリハ「……。っおおおおおっ！！メタルグレイモン、超進化アアッ！！！」

メタルグレイモン「メタルグレイモン、超進化ーーーーっ！！！」

Zグレイモン「Zグレイモン！！」

ドドドドン！！！！

ネオヴァンデモンの顔にミサイルが撃ち込まれる。

タイキ「キリハ！！」

キリハ「Zグレイモン！！遅れをとれ！！！」

するとタイキが笑う。

タイキ「ありがとな。」

キリハ「なっ……!」

（俺はタイキに……いや、皆に散々迷惑をかけた……なのに。）

シュン「まだなれないのか……。工藤タイキはそういう奴だ。」

薄く笑みをこぼしながら言った。

キリハ「フ。」

パアアアアッ!!

タイキとキリハのクロスローダーが光る。

タイキ・キリハ「なんだ?」

パアアアアアッ!!

ダブルクロス

頭にそのイメージが伝わってくる。

タイキ「キリハ！」

キリハ「タイキ！」

Ωシャウトモン「Ωシャウトモン！」

Zグレイモン「Zグレイモン！」

タイキ・キリハ「ダブルクロス！！！！」

ダブルクロス！！！！

シャウトモンDX

DX「うおおおおおっ！！！！」

ネオヴァンデモンに攻撃の隙を与えない攻撃。

しかし・・・

ロップモン「うわああああっ!!!!!!」

ロップモン達の悲鳴。

DX「くっ……!!!!!!」

戸惑ったDX。

ドドドドドン!!!!!!

隙とばかりに攻撃した……

ネオヴァンデモン「勝った……。はははっ!! はははははっ!!」

煙が晴れた。

シュン「お前は……。甘い……。」

オメガモンの盾が防いでいた。

オメガモン「シユン様をナメては困る。」

セントガルゴモン「誓うよ．．．！！デジタルワールドを．．．平和にするって！！！！！！！！」

ドーーーーーン！！！！！！

パアアアアツ

光りのひずみができる。

そして消滅した。

ロップモン「ありがとう．．．．．。」

ロップモンの声とともに……。

クロスハートとグリーンエアとブルーフレアの旗ができた。

チル「レナモンっ!!」

怪我を癒すチル。

チル「……そうですか……強くなりたいのですか……。」

レナモン「!?!?……なんで私の思考を……。」

チル「私は思考を読み取り、傷を癒す能力があるんです。」

レナモンの傷は治り、レナモンが立ち上がる。

チル「大丈夫ですか？」

レナモン「ああ。」

キリハ「シュン!!」

シュン「なんだ？」

キリハ「なんだ、その……あの……助かった……」

シュン「……で？」

キリハ「はっ……!でって……」

シュン「当然なことをしたまでだ。」

するとテリアモンがシュンの頭に乗った。

テリアモン「素直じゃないねえ。」

ネネ「キリハくんも!」

キリハ「っ……!ネ、ネネ!!」

タイキ「さあ、次のランドに出発だ!!」

キリハ「ああ。」

ネネ「そうね。」

シュン「……………」

シャウトモン「次のランドでどんな敵が待ち構えているかしらねえけど……。ぜってーまけねえ!!!!」

テリアモン「僕も、僕も!。」

ハニーランド！メルヴァモンとの出会い！！

ここはハニーランド・・・。

ライラモン「きゃあ！！きゃああああっ！！！！」

ライラモンがデスジェネラル配下のデジモン達に負のエネルギーを吸われる。

矢のようなものが突き刺し、ライラモンの負のエネルギーを吸うデジモンを撃退する。

ライラモン「ハア、ハア、ハア・・・。」

レナモン「大丈夫か？」

ライラモン「助けてくれて、ありがとう。お名前は？」

レナモン「私はクロスハートのレナモンだ。」

ライラモン「クロス・・・ハート・・・。それって工藤タイキくんの・・・!?!」

レナモン「タイキを知っているのか!?!」

すると・・・

タイキ「レナモン!!・・・ってライラモンっ!!」

ライラモン「タイキくん!!・・・あれ、この前、ラブラブダンス踊った人達は?」

タイキ「あ、いやあ・・・あ・・・、あははははっ!!」

シュン「誤魔化しになってないと思うぞ。」

するとタイキはズーンとなった。

タイキ「・・・わかってるよ。」

すると小さなデジモン・・・

イグニートモン「うあああああっ!!!!」

迫ってくる。

シャウトモン「なんだあ!?!」

レナモン「危ないっ!!」

レナモンが抑える。

イグニートモン「やああああっ!!」

サツとかわすレナモン。

タイキ「敵か!?!」

チルの体は光に包まれる。

チル「スピリットエボリューション!!」

フェアリモン「フェアリモン!」

フェアリモン「レナモンっ!!」

フェアリモンがレナモンとイグニートモンとの戦いに入ろうとする
と・・・

メルヴァモン「おおおおおおおっ!!!!」

レナモン「ぐっ!!」

レナモンを突き飛ばした。

レナモン「ッ・・・!!何をする!?!」

メルヴァモン「やめろ!イグニートモン!!」

イグニートモン「姉さん!!」

メルヴァモン「なんでザミエルモンの配下なんかにつ!!!!」

イグニートモン「姉さんはいいさ!!強いから・・・!!!!」

タイキ「・・・・・・・・・・。」

(姉弟・・・・・・・・！？ほっとけない・・・・・・・・！)

するとさっき、ライラモンの負のエネルギーを吸ったハニービーモンに襲われる。

メルヴァモン「ぐっ・・・・・・・・邪魔だ！！」

すると・・・・・・・・

ザミエールモン「ふ、ふ、ふ・・・・・・・・。」

キリハ「誰だ！？！」

ザミエールモン「誰って・・・・・・・・デスジェネラル、ザミエールモンだ。」

シャウトモン「んだとお！？なら・・・・・・・・勝負だ！！」

タイキ「待て、シャウトモン！！」

シャウトモン「ラヴィロッカー！！！！」

マイクをぶつけようとするが小さすぎて狙いが定まらない。

シャウトモン「くっそー!!」

ザミエールモン「やれ。」

するとハニービーモンに負のエネルギーが吸われる。

シャウトモン「ぎゃあああああっ!!」

タイキ「シャウトモンっ・・・!!」

ライラモン「危ないっタイキくんっ!!」

タイキに迫るハニービーモン。

ドルルモン「タイキっ・・・!!」

するとドルルモン、バリスタモンの吸われ、へなへなに。

ネネ「リロード! スパロウモン!!」

スパロウモン「ネネは僕が守る!!!!」

しかし、スパロウモンは吸われ始める。

レナモン「させるか!!」

ハニービーモンを払うもレナモンが吸われてしまった。

スパロウモン「ごめん、レナモン!!」

ネネ「レナモンっ!!」

キリハ「リロード!! グレイモン! メールバードラモン! デジクロス!!」

デジクロス!!!

メタルグレイモン

タイキ「むやみにデジモンをだしちゃダメだ!!」

ハニービーモンに吸われる。

メタルグレイモン「ぐおおおお!!」

シュン「……。これは結構な相手だな……。」

メルヴァモン「ザミエールモンっ!!」

メルヴァモンの剣がザミエールモンに迫る。

するとイグニートモンが立ち上がる。

ザミエールモン「あとは任せたぞ。」

イグニートモン「はい！」

メルヴァモン「イグニートモン！！！！」

ライラモン「皆！こっちに逃げて！！！」

そこにはステイングモン等がいた。

キュートモン「ダメっキュ……。皆元氣にならないっキュ。」

チル「こっちもです。」

メルヴァモン「当然だ、負のエネルギーを奪われたんだから。」

ネネ「！！・・・そんな言い方・・・ないじゃないっ！！！」

キリハ「傲慢な奴だな。」

メルヴァモン「私は私で戦う！！ザミエールモンに！！」

キリハ「策もなしにか？」

メルヴァモン「策なんかあいつには効かない！！！！正面突破だ！！」

するとキリハはメイルバードラモンをリロードする。

キリハ「ついていけん。」

シュン「キリハっ！！！」

そのまま去っていく。

シュン「ツチ……。全く……。」

タイキ「メルヴァモン！俺、協力するよ！」

ネネ「タイキくん！！」

シュン「……。タイキ……。」

タイキ「俺は、メルヴァモンについていく。いやなら、ネネもシュンもついていなくてもいいけど……。」

ネネ「私は・・・タイキくんについていくわ。」

シュン「・・・こんな女の作戦で少人数で挑むのは危険だな・・・
。仕方ない。」

テリアモン「ツンデレ♪」

シュンの頭の上に乗った。

チル「私もタイキさんについていきます。」

レナモン「私もだ。」

メルヴァモン「・・・行くぞ。」

タイキ「ふう……。すごい道だなあ……。メルヴァモン、待ってよ。」

メルヴァモン「こんくらいでばててちゃ、ザミーエルモンを倒すのは無理だな。」

シャウトモン「んだとお!!」

遂にキレルシャウトモン。

シャウトモン「黙って聞いてりゃーよお!! なんなんだよ! その態度はよお!!」

チル「ハア、ハア……。」

レナモン「チル、大丈夫?」

チル「……仕方ないです。」

チルは光に包まれる。

チル「スピリットエボリューション！」

フェアリモン「フェアリモン！」

メルヴァモン「なんだ、デジモンになれるのか、なら先に言ってくれ。」

シャウトモン「だーかーらーあ！！話聞いてんのかよ！？」

シュン「……もう限界だ。」

テリアモン「シュン……！」

タイキ「シュン？」

シュン「……………」

（これは俺が先陣をとらないとな。）

シュン「ここで別行動だ。」

テリアモン「シューン！」

メタルガルルモンをリロードし、それに乗り、去っていく。

タイキ「シュン！！」

メルヴァモン「全く……。」

ネネ「誰のせいだと思ってるの！？」

フェアリモン「ネネ……。」

ネネ「いい加減にして！皆、アナタのやり方についていけないのよ。」

遂に、ネネも不満をあらわにする。

タイキ「……。」

（シュンはともかく、皆の気持ちがバラバラに……どうすれば……）

メルヴァモン「……ついた。」

そこには、城のようなものがあつた。

メルヴァモン「ここに、ザミールモンのすみかがある。」

姉弟！それぞれの思い！

先陣をとったシュン。

メタルガルルモン「・・・ここからは「匂い」が違います・・・。
近くに敵が・・・ザミールモンが潜んでいます。」

シュン「そのようだな・・・。」

テリアモン「シュンっ・・・、皆をほうっておいていいの？」

シュン「ほうっておく？まさか・・・。敵を先にいって敵を弱らせておくんだ。・・・今のあいづらじゃ、いつ来るかわからないからな・・・。」

テリアモン「なあんだ、早く言ってよ。」

すると兵隊デジモンが襲ってくる。

シュン「兵隊・・・しまった！！！！まんまとかかった！！！！リロード！！ウォーグレイモン！父さん！！！！」

兵隊デジモンに対抗する。

シュン「兵隊だけが残って・・・ザミールモンは・・・！！このままだとタイキ達が危ない！！！！テリアモン！先に戻ってくれ。」

テリアモン「うん。」

テリアモン「テリアモン、進化！」

セントガルゴモン「セントガルゴモン！！！！」

イグニートモン「ザミールモン様からの命令だ！！この先にはす
すませない！！」

メルヴァモン「イグニートモン！！」

イグニートモン「姉さん……。」

ネネ「えっ……姉弟なの！？」

メルヴァモン「たとえば、イグニートモンでも・・・張り倒す!!!」
ぶつかり合う姉と弟。

ネネ「どうして・・・そんなことが・・・できる・・・の・・・？」
頭にユウの声がフラッシュバックする。

ユウ「姉さん・・・!!」

ネネ「どうして!!??」

タイキ「ネネ、本当に大切な人のためなら・・・悪いことをしてたら正す・・・徹底的に・・・。それが・・・大切な人のためになるんじゃないのか・・・？」

ネネ「・・・。」

(そう・・・なのかな・・・。)

(ううん、そうなのよ・・・。)

(メルヴァモンはほんとは・・・苦しいのよ・・・!!)

(ここで私が・・・悩んでどうするの!?)

ザミールモン「ははは、いい光景だ。」

ザミールモンが現れた。

タイキ「ザミールモン!!まさか、シュンが!!」

ザミールモン「緑のジェネラルとは合わなかったなあ・・・!」

タイキ「何・・・!?しまった・・・!!!!」

ネネ「リロード、スパロウモン!!」

スパロウモン「ランダムレーザーっ!!!!」

ズドオオオオン!!!

しかし小さすぎて当たることにはなかった。

ザミールモン「あたらないさ・・・。さあ、イグニートモン・・・スパロウモンなんぞ倒してしまえ。」

イグニートモン「・・・はい。」

メルヴァモン「やめろ、イグニートモン！」

止めるメルヴァモン。

イグニートモン「強い姉さんにはわからない!!!!弱い俺は・・・従うしかないんだ!!!」

メルヴァモン「イグニートモン!!!」

そこに・・・

スパロウモン「ランダムレーザー!!!!!!」

吹き飛ぶ、イグニートモン。

ネネ「まだわからないの!?メルヴァモンは何よりはアナタが大切だから・・・だから・・・張り倒してでも倒す!!!!!!」

イグニートモン「ええっ!?!」

戸惑うイグニートモン。

ザミーエルモン「チッ、仕方がない・・・。ハニービーモン強制デジクロス!!!!!!」

ハニービーモンがデジクロスで巨大化する。

ネネ「スパロウモン！メルヴァモン！！」

ネネ「メルヴァモン！スパロウモン！デジクロス！！！！」

デジクロス！！！！

ジェットメルヴァモン

ジェットメルヴァモン「うおおおおおーーーーーっ！！！！！！」

攻め込むジェットメルヴァモン。

フェアリモン「私も！！」

レナモン「私もだ！」

ドドドドン！！！！

ぶつかり合っている。

イグニートモン「姉さん……………」

そこにザミエルモンが潜む。

ザミエルモン「裏切りものが……!!」

攻撃を仕掛ける。

イグニートモン「わあああっ!!」

ズガアアアン!!!!

セントガルゴモン「……。」

タイキ「セントガルゴモン!!……シュンは？」

セントガルゴモン「あとからくるって……!!」

「遅いな……セントガルゴモン。」

セントガルゴモン「わわっシュン!？」

タイキ「早いね……。シュン。」

ドオオオオオン!!!!

メルヴァモン達は巨大ハニービーモンを倒す。

爆風に紛れて姿を消すザミエールモン。

メルヴァモン「あの・・・ネネ・・・。ありがとな!!」

ネネ「ううん、ひどいこと言ってごめん・・・。メルヴァモン!!」

ニコツとネネは笑う。

新たな仲間が誕生した。

タイキ「でも・・・デスジェネラルがあんなに小さいと倒しづらいな・・・。」

シュン「…………。任せろ…………。奴の基地にもう一回行く。」

タイキ「危険じゃないのか!?!」

シュン「任せろ。」

独りじゃない、新たな力！

キラハ「……………。っ！あれは…………ザミールモン！？」

ザミールモン「フツ、フツ、フツ…………。」

キラハ「メタルグレイモン！ギガデストロイヤー！！！！」

ズガアアアアン！！！！

辺りを一気に破壊した。

地に降り立つキラハ。

キラハ「…………、ザミールモン…………観念しろ。」

ザミールモン「観念するのは・・・お前の方だっ!!!」

ドーーーーーン!!!!!!

キリハ「ぐあっ!!!」

吹き飛ばされるキリハとメタルグレイモン。

キリハ「何が起こった!?!・・・いや、メタルグレイモン!超進化だ!!!」

メタルグレイモン「メタルグレイモン、超進化ーーーーっ!!!」

Zグレイモン「Zグレイモン!!!」

Zグレイモン「トライテンドファング!!!!」

ズガシャアアアアン!!!!!!

しかし・・・

ドーン!!!!!!

キリハ「Zグレイモン!?・・・うわっ!!」

キリハの目の前で倒れるZグレイモン。

キリハ「・・・なっ・・・。」

言葉も出せない。

Zグレイモンの超進化は解けた。

すると、ぐんぐん大きくなっていくザミールモン。

ザミールモン「ハハハハッ!!」

キリハ「バカなっ・・・!!」

「リロード!!!」

ウォーグレイモン「ガイアフォース!!!!」

ドンっ!!!!!!

煙と砂埃が立ち上がりさらにザミールモンがひるむ。

シュン「一時退却だ!!!」

すると顔をそむけるキリハ。

シュン「早くっ!!」

キリハ「リロード、サイバードラモン!!」

シュン「こっちだ。」

合流する皆。

タイキ「キリハが無事で良かったよ。」

ネネ「そうね。」

シャウトモン「あんだ、シュンも素直じゃねえなあ。キリハを助け

に行くならそういえばいいのに。」

シュン「黙れ、そんなじゃない。」

テリアモン「ムキになったあ♪」

シュン「・・・なっていない。」

かすかにイラッとしているのは確実。

タイキ「ハハハ、ハハハ。シュンもかわいいところあるんだな。」

シュン「どういう意味だ。」

ネネ「どうやってあの巨大なザミエルモンを倒すの？」

キリハ「敵がでかくなって狙いやすくなっただが……。」

シュン「巨大化によりステータス上昇……、ただでさえ手ごわい相手だから……。」

チル「様子見に行きますか？」

シュン「データを取る必要がある、チル行くぞ。」

チル「はい、レナモンさん！」

レナモン「ああ。」

ザミエルモン「また来たのか。」

シュン「ウォーグレイモン！メタルガルルモン！デジクロス！」

デジクロス！！！！

オメガモン

チル「スピリットエボリューション！！！」

フェアリモン「フェアリモン！」

シュン「オメガモン！！様子見だ。」

オメガモン「はい。」

ズドオオオオオン！！！！

（やはり・・・ステータスは上昇しているのか・・・。）

フェアリモン「私も加勢するわ！！！」

シュン「待て！！！！」

ドオオオオオオオン！！！！

敵が多く現れ、必殺技を使った。

シュン「っ・・・!!」

レナモン「!?!?フェアリモンの姿がない!!!!どこにいたんだ・・・
フェアリモン!!!!」

応答はなし。

シュン「オメガモン。」

クロスローダーから介して話しかける。

シュン「奴の弱点を探れ。」

チル「う．．．うう．．．ここは．．．。」

目が覚めた。

どうやら戦いで地面が割れ。落ちたらしい。

チル「．．．レナモンさん．．．、助けて．．．。」

びかあ．．．

奥の方で何かが光っている。

チル「これは．．．。」

バババババツ!!!!

激しい光に包まれた。

オメガモン「弱点は見つけましたが、戦力が少なすぎます。」

ホーリーエンジェモン「私が出る。」

クロスローダーからシュンに話かけた。

シュン「わかった・・・りろ・・・ハッ！！レナモン、かわせ
っ！！！」

ドオオオオオン！！！！

爆発が起きる。

オメガモン「シュン様！？」

レナモン「う・・・うう・・・。」

技をよけることができなかったレナモン。

シュン「レナモンの傷が・・・致命的だ。・・・こうなると一時撤退もやむを得ないか・・・。」

レナモン「私のことはいい……。早く、倒して……。チルを……。」

シュン「……。そんなの……。『ほっとけない』……。だろ。」

薄らとシュンは笑みを見せた。

レナモン「シュ……。ン……。」

ドドドドドン！！！

レナモンの体が輝いていく。

レナモン「！！ッう！！！」

シュン「リロード、父さん！……。早くレナモンを運んでくれ。」

ホーリーエンジェモン「シュン、まさかつ！！！」

シュン「ジェネラルがいなくなった戦いくさなどものじゃない。」

オメガモン「シュン様つ……。！！！」

シュン「安心しろ、レナモン。チルは必ず助ける。」

ホーリーエンジェモン「シュン、まさか1人で!!??」

レナモン「私のことはいいと言ったはず!!!!」

シュン「・・・俺はもう・・・独りじゃない・・・。」

「そうです!!!!誰も・・・1人じゃないんですっ!!!!!!」

レナモン「この声は……。」

チルが何故か上がってきた。

チル「私は新たな力を身に着けたんです……!!」

レナモン「新たな……力……?」

チル「スピリットエボリューション……!!」

激しい光に包まれた。

チル「はぁぁぁぁぁあっ！！！！！」

パアアアアアン！！！！！！

シューツモン「シューツモン！！！！！」

レナモン「新たな・・・力？」

シューツモンはレナモンの傷を癒す。

シューツモン「ちゃんとした手当は後でやるよ…………。よし…………。」

ザミールモンに向かっていく。

ステータスは圧倒的に上昇していたが・・・

敵うものではなかった。

レナモン「……………」

（シューツモンはあんなに頑張っているのに……なにもできないのか……。）

（私だって……力が欲しい!!!）

クロスローダーが光る。

シュン「あれは・・・進化の光っ！！！！」

レナモン「レナモン、進化！！！」

キュウビモン「キュウビモン!!」

ザミールモン「そんなので・・・勝てるかああああ!!」

ビームを放つ。

ホーリーエンジェモン「ヘヴンズゲード!!」

技を飲み込んだ。

その隙ができた。

シューツモン・キュウビモン「やああああ!!」

ザミールモン「ぐっ・・・うううう!!」

シュン「いまだ!! 貫け!!」

ドドドドドン!!!!

ザミールモンは悲鳴を上げることなく消滅した。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n0228w/>

デジモンクロスウォーズ～4人のジェネラルの絆～

2011年10月17日10時00分発行